

ハッチョウトンボのヤゴを探せ！一皿池湿原守り人の試み

渡辺昌造・守り人メンバー（ハッチョウトンボカムバックキャンペーン）

ハッチョウトンボって？

成虫は世界最小クラスの体長2cm
兵庫県Bランクの希少、低茎湿原に特有
ヤゴは終齢で体長約8mm



写真1 ハッチョウトンボのヤゴ

豊かな生態系一皿池湿原

三田市の皿池湿原は、湿原特有のハッチョウトンボやヒメタイコウチなど多様な生き物が豊富に生息しており、2019年兵庫県の天然記念物に指定されている。

目的

湿原のなかでも限られたところでしか見られないハッチョウトンボの生態はどうなっている？しかしハッチョウトンボのヤゴは野外でなかなか見つからない。

北摂の松尾湿原での知見をヒントに、トレイを置いてハッチョウトンボが産卵するかどうかを試し、ハッチョウトンボの生態を明らかにすることで、これからの保全に役立てる。

方法

産卵床としてトレイを湿原内にランダムに設置し、繁殖期間後にヤゴを探す。

設置箇所：全20か所

設置トレイ：ポリプロピレン製

346mm×237mm×115mm（約0.08m²）

（底穴φ4mm×12か所）

人工芝300mm×300mm（20mm芝）

設置期間：2024年5月11日～11月8日（約5か月間）

設置 5/11(14か所)，6/7(6か所)

回収 10/16(9か所)，11/6(5か所)，11/8(6か所)

結果

トレイ全20個中、7個でハッチョウトンボのヤゴを確認した（下図の赤丸箇所）。



ハッチョウトンボがいた条件

水	なし		少		多	
	なし	あり	なし	あり	なし	あり
草						
ハッチョウトンボがいたトレイ数	1	0	1	5	0	0
該当するトレイ数	1	3	2	9	0	4

基準：水がトレイの半分以下を「少」、半分以上を「多」

草はトレイの周囲2.5cm以内に草丈1.0cm以上の草の有無

水「少」・草「あり」条件のトレイで多く見つかり、水没する条件では見つからなかった。しかし各条件のトレイ数が偏っており、また設置期間中の状態が不明のため、ハッチョウトンボが産卵する条件ははっきりしない。

ヤゴの成長

終齢を含む複数齢の幼虫グループを確認した。

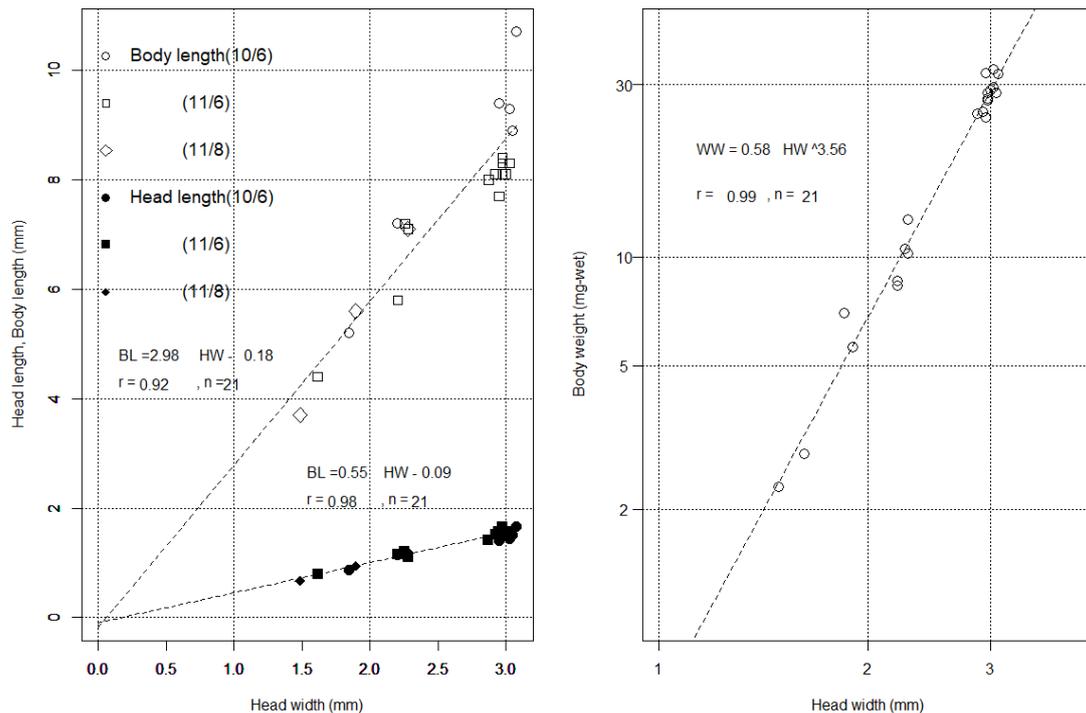


図1 ヤゴの頭幅と頭長と体長 (左)、体重 (右)、の関係

トレイにいた生き物

ドンコやドジョウの稚魚やハッチョウトンボ以外のトンボ幼虫も多数確認できた。

気象条件

湿原が流れて掘削され乾燥部が現れ、流れが枯れる個所も出現した。期間中の降水量67.7mmは、平年に比べて約100mm少なく、平均気温24.0℃は平年に比べて2℃高かった。



写真2 ヤゴがいたトレイ

写真3 ヤゴがいなかったトレイ

写真4 ヤゴ調査

まとめ

ハッチョウトンボのヤゴは湿原のなかのトレイに高い確率で産卵。しかし選択条件は不明。ヤゴの成長は場所により差があるが、終齢で越冬すると考えられる。

保全に向けた課題

産卵床調査の選択条件を明らかにするために方法を検討し、今後も継続する。非常に限られた産卵場所の条件が想定され（草に覆われない浅い流れ etc）、植生や気象の変化による影響に注意しながら、生態の観察や個体数の変化を記録することが重要。

以上